

沖澤のどか 指揮

京都市交響楽団第14代常任指揮者。2023年4月より3年間の任期中に、日本を代表するオーケストラの定期公演のみならず、教育・ファミリーコンサートにも携わる予定。

2019年ブザンソン国際指揮者コンクールで優勝し、同時にオーケストラ賞および聴衆賞も受賞。18年東京国際音楽コンクール〈指揮〉第1位。

2020年から2022年にかけて、ベルリン・フィルのカラヤン・アカデミーより奨学金を受け、演奏会やオペラ公演で首席指揮者キリル・ペトレンコのアシスタントも務める。ベルリン・フィル・アカデミー・メンバーとの共演による自身のコンサート・プロジェクトの他、2022年3月にはフランク=ヴァルター・シュタインマイヤー連邦大統領の招待を受け、ウクライナとの連帯を表明するためのコンサートに参加しベルリン・フィル奏者らを指揮。22年5月に、ペトレンコとともにカラヤン・アカデミー創設50周年記念公演を指揮。

2023/24シーズンは、バーゼル室内管弦楽団、ウィニペグ交響楽団、ケベック交響楽団、BBCウェールズ・ナショナル管弦楽団等でデビューを飾る他、N響定期公演デビュー、東京交響楽団、2022/23シーズンにアーティストインレジデンスを務めたミュンヘン交響楽団の指揮も予定されている。また、読響、新日本フィル、日本フィル、オーケストラ・アンサンブル金沢も定期的に指揮している。2022年にはセイジ・オザワ 松本フェスティバル モーツァルト「フィガロの結婚」（ロラン・ペリー演出）で、サイトウ・キネン・オーケストラを初指揮。

これまでにネーメ・ヤルヴィ、パーヴォ・ヤルヴィ、クルト・マズアなどによるマスタークラスを多数受講。19年および20年には、リッカルド・ムーティ「イタリア・オペラ・アカデミー in 東京」の受講生に選出。オーケストラ・アンサンブル金沢で指揮研究員を務め、国内およびヨーロッパのオペラ・プロダクションに携わるなど、さらに研鑽を積んでいる。20年、東京二期会《メリー・ウィドウ》を指揮。

2023年に公益財団法人ソニー音楽財団から「齋藤秀雄メモリアル基金賞」を授与される。

1987年、青森県生まれ。幼少期よりピアノ、チェロ、オーボエを学ぶ。東京藝術大学で高関健、尾高忠明の両氏に指揮を師事し、修士号を取得して卒業。さらに、ハンス・アイスラー音楽大学ベルリンでクリスティアン・エーヴァルト、ハンス=ディーター・バウムの両氏に師事し、19年に修士号を取得。ベルリン在住。